

新年を迎える時に思うこと…

校長 中基 信夫

クリスマスからお正月へと、世の中は浮足立ちながら時を重ねていきます。とりわけ昭和の時代を生きた私は、子どもの頃の正月の準備を思い出します。クリスマスが終わると街中は一気に年末の雰囲気突入…。「歳末大売り出し」のポスターや旗が商店街を埋め尽くします。お飾りの露店が出始め、通り過ぎる割烹着を着た主婦の人たちが、足早にその中を行き来します。

昭和の時代では、年末の大掃除や新年を迎える準備には子どもは貴重な戦力でした。障子の張り替えを手伝ったり、買い出しを頼まれてメモを見ながら商店街を右往左往したりと、家族の一員としての自覚がここで育ちました。その忙しさの目を盗んでは、近所の友だちとすぐに暗くなってしまわずかな時間に遊ぶのが至極の楽しみでした。そういう私も、お使いを頼まれて家を出たものの、途中で友だちと合流してしまうと、買い物かごを道端に放り投げてベーゴマに興じてしまったりして、真っ暗になって家に戻ると母親の「こらっ！」という声に肩をすぼめたものでした。そんなことをしているうちに初雪が降り始めます。



最後のひと咲き